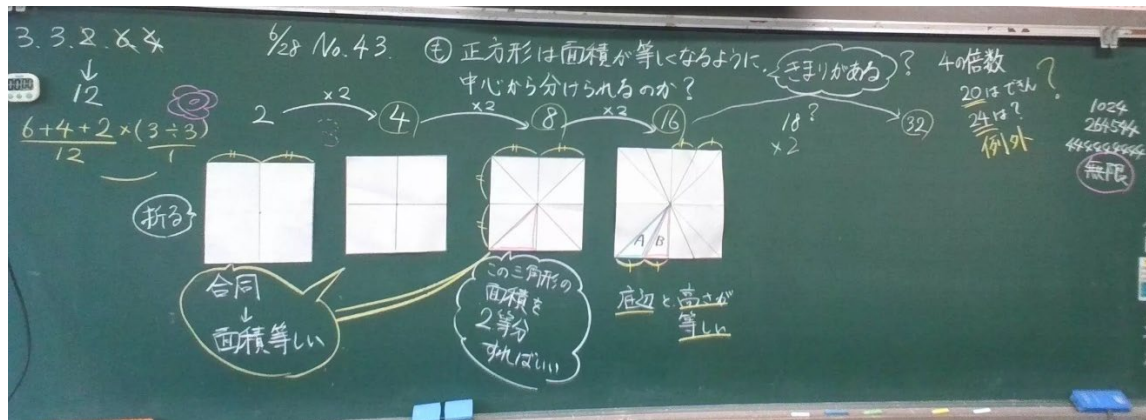


算数科 6年生 単元名 『面積の等分』	
日時	6月 28 日
授業者	福原 正隆
本時のねらい	正方形の面積を等分していく活動を通して、面積が等分されていることを底辺と高さに注目して理解するとともに、図形をしなやかに見る力を養う。
単元・題材計画	第 1 次 三角形の面積の等分……………1時間 第 2 次 正多角形の面積の等分……………2時間(本時1/2)
授業の実際 (本時の流れ)	円を中心から等分していくように、正方形も中心から等分するとしたら、何等分ならできだろうか。という問題について子どもたちは考えた。2, 4, 8, 16, 18等分ができるという発言があり、「どのように分けるのか」「面積が等分されていると考える理由」について確認していった。2, 4, 8等分については「合同だから面積は等しい」と考えていたが、「16等分にする方法はよくわからない」という児童もいた。 そこで、「16等分はどうやって分けるのか？」という問いについて追究していった「合同に分けられないから無理だ」と考えていた児童もいたが、他者と話し合う過程で「合同」という視点から「底辺と高さ」という視点に見方を転換することで、16等分の方法を理解することができた。 終盤には、等分できる数にはきまりがあるという話になり、2等分、4等分、8等分、16等分と、2倍ずつ増えていると発見した。 振り返りでは、「他の等分はできないのか?」「24等分もできた。あのきまりは違うと思う。」など、学びをつなげていく記述が多くみられた。
事後協議の概要	主に「本時の目標」について議論した。目標の中にある「しなやかに見る」とはどういうことなのか。授業者は「図形を固定的に見ないで、～したり、～したり…」と様々な姿を想定していたが、目標をより焦点化し、本時ではどのような見方ができればよいのか定めた方がよいという意見がでた。一方で、目標を絞りすぎてしまうと、レールを敷く授業、子どもたちを教師のねらいとする方向のみに導く授業になってしまう恐れもある。授業観にも関わる話になった。 また、山場となる場面に時間をかけるために、どこをどう削っていくか授業全体のタイムマネジメントについても交流した。

本時の板書



次時の板書

